

令和7年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立都南小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・予想や考察、まとめなどの問題解決の過程を踏まえて学習することができている。
- ・実験の楽しさを実感している児童が多い。

(2) 課題

- ・観察、実験の結果から考察する力や、自分の考えを文章で表現する力、科学的事象と身近な事柄とを関連付けて考える力が十分でない。
- ・知識、技能の定着が十分でないところが見られる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	目標値よりやや下回っている。		
第5学年	ほぼ目標値である。	目標値よりやや下回っている。(第4学年時)	
第6学年	目標値よりやや下回っている。	目標値より下回っている。(第5学年時)	目標値よりやや下回っている。(第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・音のせいしつや電気の通り道についての理解が、目標値を上回っている。 ・植物やこん虫の育ち方、磁石の性質、太陽と地面のようすに関する理解が十分とは言えない。	・電気の通り道について、回路が成立する条件に関する理解が、目標値を上回っている。 ・実験結果から考察する力が十分とはいえない。	・自然事象への関心及び意欲は高く、学んだことを学習や生活に生かそうとする態度が見られる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・学習内容について、概ね知識の定着が見られる。(5年生) ・月と星に関する理解が十分とはいえない。(5年生) ・流れる水のはたらき、植物の花のつくりと実につい	・科学的事象を日常生活に生かして考える力が目標値を上回っている。(5年生) ・実験結果を推測する力が目標値を上回っている。(6年生) ・科学的事象を日常生活に生	・結果が出るまで繰り返し取り組もうとする姿が見られる。 ・自然事象への関心及び意欲は高いが、科学的な結果を求めるための条件設定が正しくできているのかを

ての理解が目標値を上回っている。(5年生) ・植物の発芽と成長、天気の変化に関する理解が十分とは言えない。(6年生)	かして考える力が十分ではない。(6年生)	自ら見直す児童が少ない。
---	----------------------	--------------

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 生活経験や身近な現象と結論を、関係付けて考えられるような指導をする。 - 説明活動を取り入れることで、理解を深める。 - 理科用語は覚えにくいものがあるので、掲示しておくなど、いつでも見て使えるようにしておく。	- 児童の気付きや疑問を整理して、そこから学習問題をつくる過程を丁寧に指導することで、児童が問題をつくることができるようにする。 - 結果の予想をするときに、根拠となる理由を明らかにする過程を丁寧に指導することで、問題解決の流れに沿って考える力を付けられるようにする。	- 自然に親しむ場を大切に、不思議に思ったことや気付いたことを見付け、伝え合う体験を丁寧に扱う。 - 学習したことを児童が確実に理解し、次の学習に生かしたり、生活と結び付けたりできるよう、授業の展開を工夫する。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 結論を身近な現象や実生活、既習事項とも結び付けて考えられる指導をすることで、実感を伴った理解をさせる。 - 説明活動を取り入れることで、理科用語の理解を深める。 - 理科用語を掲示し、いつでも参考にできるようにする。さらに、それを繰り返し使っていくことで知識を定着させる。	- 問題の予想を検証するための観察や実験計画を立てる過程を丁寧に指導し、児童自身の力で、ある程度実験計画を立てられるようにする。 - 予想や仮説の内容と観察、実験などの結果を照らし合わせて考えられるように、実験の流れを丁寧に振り返らせる。 - 観察、実験などの結果を基に、事実と考察を分けて自分の考えが説明できるように、考察からの流れを繰り返し指導する。	- 事象との出会いを大切に、不思議さを見付けたり、気付きを友達と共有したりする体験を丁寧に積み重ねていく。 - 問題解決の流れを意識して児童自身が考えたり、科学的に実験を行うことができるよう条件を見直したりできるよう、協働的な学びの場を設定する。